

# 令和6年度採用 高等学校 商業

教科（科目）	受験番号
商業	

1 次の（1）～（12）の問いに答えよ。

（1）法定福利制度の中で、業務、通勤時の病気やけがに対する保険で、保険料の全額を会社が負担する制度を何というか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は11。

- ① 厚生年金保険    ② 健康保険    ③ 介護保険    ④ 労災保険  
⑤ 雇用保険

（2）製造原価の40%の利益を見込んで予定売価をつけた商品を予定売価の8割で販売した。実売価は¥224,000であった。このとき、この商品の製造原価に対する利益率は何パーセントか。この値として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は12。

- ① 10    ② 12    ③ 14    ④ 16    ⑤ 20

（3）原田産業（株）の次の損益計算書にもとづいて、同社の目標営業利益¥153,000を達成するための売上高を計算した。このとき、売上高の値として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は13。

（単位：円）

原田産業（株） 損益計算書	
I 売上高	250,000
II 変動費	<u>75,000</u>
貢献利益	175,000
III 固定費	<u>85,000</u>
営業利益	<u><u>90,000</u></u>

- ① 313,000    ② 330,000    ③ 340,000    ④ 350,000    ⑤ 404,600

（4）物事や論理を整理するとき、重なりや漏れをできる限り抑えるための基本的な考え方を何というか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は14。

- ① CFR    ② CRM    ③ ESTA    ④ MECE    ⑤ SWIFT

(5) 次の文の (ア)～(ウ) に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は15。

悪天候や環境悪化、過度の賃金の引き上げ、輸入原材料価格の上昇などによって企業の生産コストが上昇すれば、企業はこれまでと同じ価格で従来と同じ生産量を維持することはできなくなる。このような現象を (ア) という。(ア) は、(イ) を左にシフトさせ、景気の後退とインフレーションをひきおこす。この経済活動の停滞とインフレーションが共存する現象を (ウ) という。

	ア	イ	ウ
①	マイナスの供給ショック	総供給曲線	スタグフレーション
②	マイナスの需要ショック	総供給曲線	スタグフレーション
③	プラスの供給ショック	総需要曲線	スタグフレーション
④	プラスの需要ショック	総需要曲線	デフレーション
⑤	プラスの需要ショック	総供給曲線	デフレーション

(6) M&A の説明として適切なものを、次の①～⑤の中から**全て**選べ。解答番号は16。

- ① 新規事業への投資において、企業が保有していない経営資源を新たに構築することになるため、開発に失敗するリスクを負うことに加え、時間がかかるプロセスになる。
- ② 開発プロセスの初期段階では、開発費用がかさむが商品売り出すことができない状態が続くので、芽が出るまで投資を続ける忍耐強さが求められる。
- ③ 時間をかけずに自社が保有していない経営資源を手に入れることができるため、新規事業で素早く市場での地位を築くことができる。
- ④ 合併先、買収先の企業の価値を事前に適切に評価することが難しい。
- ⑤ 特定の経営資源を抛出したり相互利用したりするので、相対的にリスクを抑えて、互いの経営資源を活用できる。

(7) PEST 分析についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。  
解答番号は17。

- ① ビジネスを取り巻く外部環境から存続可能性や成長可能性を評価する際に、利益ポテンシャルに注目する分析方法である。
- ② ビジネスの存続可能性や成長可能性を四つの内部環境という観点から検討し、経営資源の重要性を明らかにする分析方法である。
- ③ 顧客データベースを利用した代表的な分析方法で、「直近の購買時期」「購買頻度」「購買金額」を検討し、優良顧客を見分ける分析方法である。
- ④ ビジネスの存続に影響を与えるさまざまな要因を、ビジネスの外部環境と内部環境の両方から整理する分析方法である。
- ⑤ 政治的要因、経済的要因、社会的要因、技術的要因から、ビジネスの存続可能性と成長可能性に影響を与えるマクロ環境要因を特定する分析方法である。

(8) 次の文の（ア）～（ウ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は18。

企業は、従業員がいることで、拡大して複雑になった事業を運営することができる。そのため、企業の成長には、従業員とよい関係を構築し、よりよく働いてもらえる環境の整備が欠かせない。そのような環境を整えるには、従業員が不快な思いをせずに働けるように（ア）への対策をしたり、仕事と生活の調和を目指す（イ）や、多様な人材の能力が発揮できる職場を実現する（ウ）を推進したりすることが重要である。

	ア	イ	ウ
①	アントレプレナーシップ	アカウントビリティ	コンプライアンス
②	ハラスメント	ワークライフバランス	ダイバーシティ
③	コーポレート・アイデンティティ	コア・コンピタンス	コンプライアンス
④	アントレプレナーシップ	ワークライフバランス	コンプライアンス
⑤	ハラスメント	コア・コンピタンス	ダイバーシティ

(9) 令和5年10月に消費税に関してインボイス制度が開始される予定である。インボイス制度についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は19。

- ① インボイスとは、売手が買手に対して、正確な適用税率や消費税額等を伝えるものである。具体的には、現行の「区分記載請求書」に「登録番号」、「適用税率」及び「消費税額等」の記載が追加された書類やデータをいう。
- ② インボイスを発行するためには、インボイス発行事業者の登録申請が必要である。登録は誰でも受けることができる。
- ③ インボイス発行事業者の登録を受けると「国税庁適格請求書発行事業者公表サイト」で登録番号が公表され、氏名または名称等の情報は公表されない。
- ④ 売手であるインボイス発行事業者は、買手である取引相手(課税事業者)すべてに、インボイスを交付しなければならない。
- ⑤ 買手は仕入税額控除の適用を受けるために、原則として、取引相手(売手)であるインボイス発行事業者から交付を受けたインボイスの保存等は必要ではない。

(10) 物権にはさまざまなものがあるが、通行、引水など自分の土地の利用のために他人の土地を利用することのできる権利を何というか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は20。

- ① 地上権      ② 地役権      ③ 入会権      ④ 留置権      ⑤ 抵当権



(11) 悪意のあるプログラムであるマルウェアは様々な種類があり、私たちの情報資産はつねに脅威にさらされている。代表的なマルウェアについて説明した文として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は21。

- ① インターネットなどから対象のコンピュータに対して、管理者の権限でコンピュータの操作を可能にするソフトウェアの総称をランブラーという。
- ② メールに添付されたファイルを開くことや、改ざんされた Web ページにアクセスすることなどでコンピュータウイルスに感染し、ファイルを暗号化して利用できなくするものをトロイの木馬という。
- ③ ファイルに感染するのではなく、自己増殖を繰り返しながら不正な処理を行うものをワームという。
- ④ コンピュータに接続されたキーボードの入力情報を記録して、利用者に気づかれずにインターネットに送信するものなどを RAT という。
- ⑤ 企業や公共機関の Web サイトを改ざんして、そのサイトを閲覧した利用者にコンピュータウイルスを感染させ、被害を拡大させるものをキーロガーという。

(12) 以下は、図のような掛け算九九表を作成する Java プログラムの一部である。プログラムの (ア) に当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は22。

```
for (int i = 1; i <= 9; i++){  
    (ア) (int j = 1; j <= 9; j++){  
        System.out.printf("%3d", i * j);  
    }  
    System.out.println();  
}
```

1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	18	27	36	45	54	63	72	81

- ① for
- ② while
- ③ do
- ④ return
- ⑤ if

2 以下のA・Bについて、次の(13)～(16)の問いに答えよ。

A 山田商事(株)の本支店の令和3年3月31日(決算年1回)での損益計算書(一部)は次のとおりである。資料にしたがい、本支店の合併損益計算書を作成した。ただし、内部利益は控除した。

本店損益計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日 (単位:円)

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	7,500,000	売上高	42,000,000
仕入高	38,500,000	支店へ売上高	16,000,000
売上総利益	18,000,000	期末商品棚卸高	6,000,000
	64,000,000		64,000,000

支店損益計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日 (単位:円)

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	2,500,000	売上高	36,500,000
仕入高	19,000,000	期末商品棚卸高	4,000,000
本店から仕入高	15,760,000		
売上総利益	3,240,000		
	40,500,000		40,500,000

資料

- ・本店から支店に発送した商品には、すべて原価の20%の利益が加えてある。なお、支店の期首商品棚卸高には、本店から仕入れたものはない。
- ・未達事項整理前の支店勘定残高は¥1,060,000(借方) 本店勘定残高は¥820,000(貸方)である。
- ・支店の期末商品棚卸高のうち、¥3,000,000は本店から仕入れたものである。
- ・本店から支店に発送した商品¥240,000が支店に未達である。

(13) 作成した山田商事(株)の合併損益計算書での期末商品棚卸高の値として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は23。

- ① 9,190,000      ② 9,460,000      ③ 9,700,000      ④ 10,000,000  
 ⑤ 10,300,000

(14) 作成した山田商事(株)の合併損益計算書での売上総利益の値として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は24。

- ① 20,160,000      ② 20,700,000      ③ 20,740,000      ④ 21,200,000  
⑤ 21,240,000

B 山田商事(株)の貸借対照表の純資産の部の当期首(令和2年4月1日)の残高、および当期に純資産に関して行った取引は下記のとおりであった。

純資産の部の当期首残高				(単位:円)	
資本金	10,000,000	資本準備金	900,000	その他資本剰余金	1,100,000
利益準備金	700,000	新築積立金	800,000	別途積立金	1,000,000
繰越利益剰余金	8,500,000	自己株式	△3,000,000		

#### 取引

- ・令和2年6月29日 株主総会において、繰越利益剰余金 ¥8,000,000 について、次のとおり配当および処分をすることを決議した。  
株主への配当 ¥6,000,000 新築積立金の積み立て ¥800,000  
別途積立金の積み立て 600,000 利益準備金の繰入れ 600,000
- ・令和2年10月2日 自己株式のうち、40株(帳簿価額 ¥2,000,000)を1株につき ¥65,000 で売却し、代金は当座預金とした。
- ・令和3年3月31日 決算の結果、当期純利益 ¥8,000,000 を計上した。

(15) 自己株式の処分によって生じる自己株式処分差額(自己株式の帳簿価額と処分対価の差額)を計上する勘定科目として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は25。

- ① 資本金      ② 資本準備金      ③ その他資本剰余金  
④ 利益準備金      ⑤ 繰越利益剰余金

(16) 山田商事(株)は株主資本等変動計算書を作成したが、このとき、純資産合計(当期末残高)の値として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は26。

- ① 23,400,000      ② 23,600,000      ③ 24,000,000      ④ 24,600,000  
⑤ 28,000,000

3 以下のA～Cについて、次の(17)～(20)の問いに答えよ。

A 桜井商店は次の受注伝票を利用していたが、リレーショナルデータベースを活用して受注管理を行うことにした。なお、顧客数は15、商品数は10である。

受注伝票 (記入例)

受注伝票																																							
顧客コード	B0107		伝票番号	A0101																																			
顧客名	近藤商事		日付	2023/06/03																																			
住所	静岡県																																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">商品コード</th> <th style="width: 25%;">商品名</th> <th style="width: 15%;">受注数量</th> <th style="width: 15%;">販売単価</th> <th style="width: 30%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C0107</td> <td>商品 G</td> <td>120</td> <td>15,000</td> <td>1,800,000</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: right;">小計</td> <td>1,800,000</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: right;">消費税</td> <td>180,000</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>1,980,000</td> </tr> </tbody> </table>					商品コード	商品名	受注数量	販売単価	金額	C0107	商品 G	120	15,000	1,800,000														小計	1,800,000				消費税	180,000				合計	1,980,000
商品コード	商品名	受注数量	販売単価	金額																																			
C0107	商品 G	120	15,000	1,800,000																																			
			小計	1,800,000																																			
			消費税	180,000																																			
			合計	1,980,000																																			

B 表は次の通りとする。

顧客表

顧客コード	顧客名	住所
B0101	相沢商会	東京都
B0102	井上商事	神奈川県
B0103	牛島産業	岐阜県
B0104	大川商店	東京都
B0105	加藤産業	埼玉県
B0106	久米商会	愛知県
B0107	近藤商事	静岡県
B0108	佐々木商事	東京都
B0109	清水産業	東京都
B0110	瀬川商店	神奈川県
B0111	高田商事	埼玉県
B0112	多田商会	東京都
B0113	辻産業	岐阜県
B0114	戸郷工業	愛知県
B0115	新島商店	愛知県

商品表

商品コード	商品名	販売単価
C0101	商品 A	7,000
C0102	商品 B	8,000
C0103	商品 C	12,000
C0104	商品 D	9,000
C0105	商品 E	8,000
C0106	商品 F	10,000
C0107	商品 G	15,000
C0108	商品 H	9,000
C0109	商品 I	10,000
C0110	商品 J	8,500

受注表

伝票番号	顧客コード	日付
A0101	B0107	2023/06/03
A0102	B0106	2023/06/03
A0103	B0101	2023/06/04
A0104	B0114	2023/06/05
A0105	B0107	2023/06/05
A0106	B0103	2023/06/05
A0107	B0104	2023/06/06
A0108	B0110	2023/06/06
⋮	⋮	⋮

受注明細表

伝票番号	商品コード	受注数量
A0101	C0107	120
A0102	C0102	80
A0102	C0104	100
A0102	C0107	60
A0103	C0103	85
A0103	C0108	100
A0104	C0104	50
A0105	C0105	70
⋮	⋮	⋮

(17) データベースを設計するために、データの集合体である実体と、それらのリレーションシップをE-R図で示した。(ア)～(ウ)に当てはまるリレーションシップの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は27。

顧客表 (ア)	受注表 (イ)	受注明細表 (ウ)	商品表
顧客コード 顧客名 住所	伝票番号 顧客コード 日付	伝票番号 商品コード 受注数量	商品コード 商品名 販売単価

	ア		イ		ウ	
①	1	多	1	多	多	1
②	多	1	多	1	1	1
③	1	1	1	多	多	1
④	1	多	1	1	1	多
⑤	1	多	多	1	多	多

「問題を読みやすくするために、このページは空白にしております」

(18) 顧客コードが「B0107」である顧客が発注した商品名を重複なしに抽出する SQL 文として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。ただし、すべての顧客は 1 件以上の発注をするものとする。解答番号は 28。

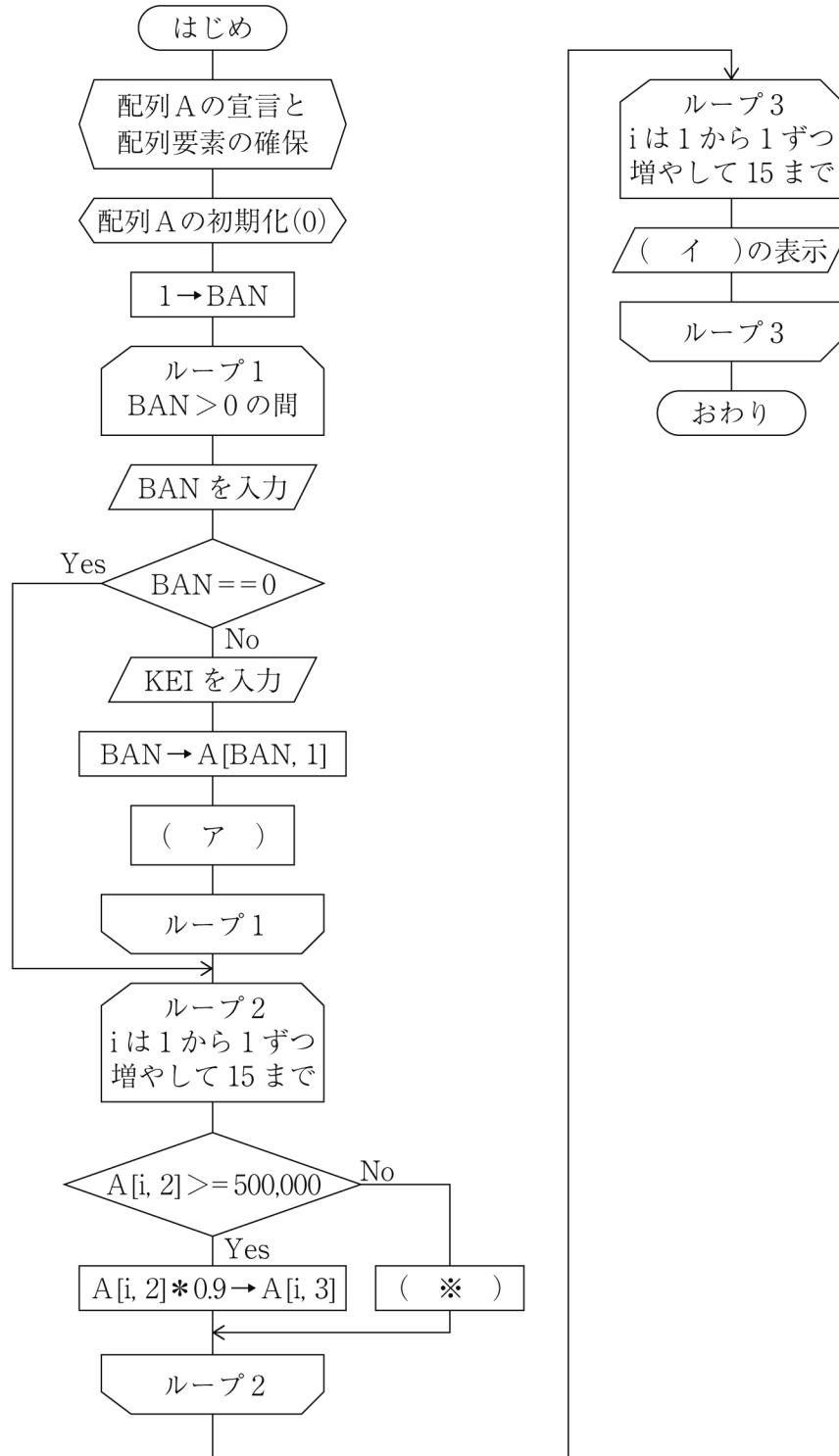
- ① SELECT 商品名 FROM 商品表, 受注明細表, 受注表  
WHERE 商品表.商品コード = 受注明細表.商品コード  
AND 受注表.伝票番号 = 受注明細表.伝票番号  
AND 受注表.顧客コード = 'B0107'
- ② SELECT DISTINCT 商品名 FROM 商品表, 受注明細表, 受注表  
WHERE 商品表.商品コード = 受注明細表.商品コード  
AND 受注表.顧客コード = 'B0107'
- ③ SELECT DISTINCT 商品名 FROM 商品表, 受注明細表, 受注表  
WHERE 受注表.伝票番号 = 受注明細表.伝票番号  
AND 受注表.顧客コード = 'B0107'
- ④ SELECT 商品名 FROM 商品表, 受注表  
WHERE 受注表.顧客コード = 'B0107'
- ⑤ SELECT DISTINCT 商品名 FROM 商品表, 受注明細表, 受注表  
WHERE 商品表.商品コード = 受注明細表.商品コード  
AND 受注表.伝票番号 = 受注明細表.伝票番号  
AND 受注表.顧客コード = 'B0107'

C 桜井商店では、顧客ごとの請求金額を受注伝票から入力して集計するプログラムの流れ図を作成した。

#### 処理条件

- 1 受注伝票の「顧客コード」の下 2 桁を数値に変換し、「合計」とともに入力する。  
(変数名は、BAN と KEI)
- 2 500,000 円以上注文すれば、請求額は 1 割引される。
- 3 二次元配列 A を用いる。番号は A[i, 1], 顧客ごとの受注金額合計は A[i, 2], 請求金額は A[i, 3] に格納される。
- 4 BAN に 0 を入力すると入力を終了し、顧客別請求表を作成する。
- 5 顧客別請求表には顧客コード順に、番号 (顧客コードの下 2 桁), 受注金額合計, 請求金額を表示する。

流れ図



(※)は各自考察すること



顧客別請求表（イメージ）

[番号]	[受注金額合計]	[請求金額]
1	1,920,000	1,728,000
2	.....	.....
}	}	}
15	□,□□□,□□□	□,□□□,□□□

(19) 流れ図の（ア）に当てはまる最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は29。

- ①  $A[BAN, 3] + BAN \rightarrow A[BAN, 3]$
- ②  $BAN \rightarrow A[BAN, 2]$
- ③  $A[BAN, 2] + KEI \rightarrow A[BAN, 2]$
- ④  $KEI \rightarrow A[BAN, 2]$
- ⑤  $A[BAN, 3] + KEI \rightarrow A[BAN, 3]$

(20) 流れ図の（イ）に当てはまる最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は30。

- ①  $i, A[i, 2], A[i, 3]$
- ②  $BAN, A[i, 2], A[i, 3]$
- ③  $A[i, 1], A[i + 1, 2], A[i + 2, 3]$
- ④  $i, A[i, 1], A[i, 2]$
- ⑤  $A[i + 1, 1], A[i + 2, 2], A[i + 1, 3]$